実践事例　小学校５年

道徳の時間で活用する
～善悪の判断、自律、自由と責任～

下関市立角倉小学校　瀧口　稔

1　本場面におけるポイント

- 導入で個々の子どもがもつ「自由」の捉えを交流することで、「自由」のもつ意味を深く考えようとする子どもの姿を生み出すことができるようにする。
- 主発問を端的に示すことで、ねらいとする道徳的価値への気付きを促す。
- 本時のめあてを導入で示し終末に確認することで、日常生活での実践意欲につなげる。

2　授業の実際

１　主題名　自律的で責任ある行動を「うばわれた自由」私たちの道徳P34～37

２　ねらい

自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をしようとする態度を育てる。

３　展開

（１）導入　これまでの経験について話し合う。

教師：あなたが考える「自由」とは、どのようなものですか。
M児：自分の思い通りにできることが「自由」だと思います。
K児：何をしても怒られないことだと思います。
T児：自分のしたい放題のことができることだと思います。
教師：「自由」は、自分自身をよりよくすることにつながるのでしょうか。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

導入で、個々の子どもが考える自由についての捉えを交流した際、事前アンケートで見取った子どもの考えを意図的に紹介した。その上で、「自由は、自分自身をよりよくすることにつながるのか」とのめあてを示し、資料に出合わせた。

（２）展開　資料を読んで、本当の自由とは何かについて話し合う 。

教師：はらはらと涙を流したジェラール王は、何を考えていたのでしょうか。
R児：もし、あの時ガリューの言うことを聞いていたら、こんなことにはなっていなかった。
S児：その自由は、間違っていた。
Y児：自分に都合のいい自由だった。
教師：最後の場面でガリューがジェラール王に言った「本当の自由」とは、どのようなことなのでしょうか。班で話し合ってみましょう。
R児：人のことを考えて、思いやりをもちながら行動することだと思います。
Y児：規則の中で決められた自由だと思います。
K児：誰一人、不幸にならないのが、本当の自由だと思います。

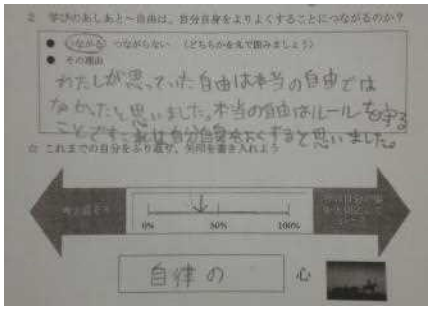
□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

本資料は、罰せられることを覚悟しながらも、誰であってもきまりを遵守させようとする森の番人ガリューと、勝手気ままな振る舞いを繰り返すジェラール王子とのやり取りが語られ、最後には牢（ろう）で再会することになった二人の場面が描かれている。そこで、「はらはらと涙を流したジェラール王は、何を考えていたのか。」と投げかけ、その気持ちを書くよう促した。全体で交流した後、ガリューが言う「本当の自由」とは何かを班で話し合った。「限られた中での自由」「誰一人、不幸にならない。」など、どの班でも活発に考えを伝え合う姿が見られた。

（３）終末　学習したことについて、自分を振り返る。

教師：自由は、自分自身をよりよくすることにつながるのでしょうか。 M児：自分中心ではなく、みんなと合わせることが必要だなと思いました。 H児：広い心をもっていることだと思いました。 D児：自分のことを一番だと思わず、みんなのことを受け入れることができる心です。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等



終末では、「自由は、自分自身をよりよくすることにつながるのか。」と改めて問いかけた。つながるとした子どもが８割、つながらないとした子どもが２割だったが、いずれの理由も、「本当の自由をつらぬけば、自分をよりよくすることにつながる。」「人のことを思いやれる自由であればつながる。」などの考えが出された。さらに、事前アンケートから明らかになった、高学年になって自由度が増したと感じている中から就寝時刻を例に挙げ、どのような心構えでこれから過ごしていきたいかを問うと、自分のためになるように読書をしたいなどの思いを語る子どもの姿が見られた。

3　実践を振り返って

自由について、放縦に近い捉えをしている子どもが予想以上に多くいる実態が事前アンケートから見受けられた。だからこそ導入で自由について多くの子どもがどう捉えているのかを全体で共有した上で資料に出合わせた。そのことで、本当の自由とは何かをより深く考えていこうとする子どもの姿が生み出せたのではないかと考えている。一方で、自律の心とはどういうことなのかを明確に個々の子どもに意識付けられるよう、「自分にとっての本当の自由とは」等の投げかけも必要ではなかったかと反省している。